

# 風土記の丘の花だより<sup>181</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2023年4月15日)

カスミザクラもそろそろ散り、春も本番になってきました。あたりは春の花でいっぱいです。前号で紹介したハランの花ですが、興味を持たれた方が少なからずおられたようで、株元をガサガサされている方を何人もお見かけしました。この花だよりをご覧になって、ふだん気にも留めない植物に目を向ける方が増えたんだと思うと、とても嬉しかったです。



まずは名前に春と付く花から紹介します。ハルジオンです。ピンク色や白色の花で、つぼみの頃は茎ごとうなだれていますが、花が咲く頃にはシャンとしています。日本の草花のように思いますが、外来植物です。もう少ししたらよく似たヒメジオンが咲き始めます。両者は開花期が重なりますが、ハルは茎が太めで、背も数十センチ程度で、全体に毛深いです。ヒメは比較的ほっそりしていて、1メートルほどに伸びます。名前もハルは「ジオン」、ヒメは「ジオオン」とビミョウに違います。ややこしいですね。



今年もジュウニヒトエが咲きました。以前、盗掘されるという悲しい出来事がありましたが、数株がしっかり生き延び花を咲かせてくれました。どの花もそうですが、これは特にみんなで見守っていかなければならない希少な植物です。今年はそれぞれの株に小さな立て札を立てました。こんな無粋なことはしたくありませんが、悲劇をくりかえしたくありませんので、あしからず。それにしてもきれいな花ですね。



これも里山の春を代表する花、「春の蘭」と書いてシュンランです。園芸植物のシンビジュウムなどと同じ仲間です。万葉植物園にはたくさん植えていますが、道沿いでもたくさん見かけます。ラン独特の花には何となく気品が漂います。野生ランも愛好家(?)が多く、シュンランもたまに掘り去られます。ご自分の山から掘って来るのは勝手ですが、みんなが楽しく歩くみんなの山ですから、心得違いをされては困りますね。みんなで見守って。とるのは写真だけにしましょう。



この木は私の知る限り風土記の丘には1本しかありません。ミツバウツギです。おそらく以前にどなたかが植えてくださったのでしょう。ハクモクレンやコブシが咲く広場を過ぎて、少し行くと、右斜めに入る細い道があります。それを少しだけ下って右側、フェンスの際にこの花が咲いています。同じウツギですが、「うのはな」のウツギとは全く違う植物です。じゃあ何の仲間なんだということになります。松下